

毎日新聞 2018. 8. 12 (日)

絵に込めた反戦の願い いわさきちひろ長男講演

絵本画家のいわさきちひろ（1918～74年）の生誕100年を記念し、「ちひろが描いた戦争と平和」と題した講演会が7月、東京都内で開かれた。講演したのは、ちひろの長男で美術・絵本評論家や作家として活動する松本猛さん＝写真。2017年には、母ちひろの評伝「いわさきちひろ 子どもへの愛に生きて」を出版した。

ちひろは淡く優しい筆致で子どもたちの姿を描き、ベトナム戦争末期に制作した「戦火のな

か子どもたち」（1973年）など、反戦の願いを込めた作品を多く生み出した。自身の戦争体験はもちろん、宮沢賢治への傾倒、「原爆の凶」を描いた丸木位里・俊夫妻との交流などを通して平和への思いが育まれていった。松本さんは講演で、ちひろの生前の写真や絵をスクリーンに映し出しながら、こうしたちひろの思いを語った。

原爆で被爆した子どもたちの文章に絵を付け

た「わたしがちいさかったときに」（67年）を制作する際には、「私には描けない」と言うちひろを、編集者が「ちひろさんが描けば、野の花一本だってこの子たちの嘆きを伝えるはず」と励ましたという。松本さんは「子どもたちが犠牲になるような戦争を絶対起こしてはならないという思想が、絵の向こう側にある。その思いを重ねていく人たちがちひろの絵を支え続け、本を出版させ続けている」と結んだ。

特別展「生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。」が9月9日まで、東京都千代田区の東京ステーションギャラリーで開かれている。京都、福岡を巡回予定。【塩田彩、写真も】

